

生理学B (Physiology B)					担当教員	
					教授	芦原 英司
					准教授	北村 佳久
					助教	高田 和幸
科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等		
薬学専門教育(講義)	2年次 前期	講義	1.5単位	必修		

【概要】

薬学生として病態時の人体機能変化ならびに薬物作用を理解するためには、また薬物および生理活性物質の人体に与える影響を重視する薬学において、まずヒト正常時における生理機能およびその調節機構を正確に把握することが必須である。生理学Bでは人体解剖学の知識に基づき、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、感覚器系、生殖器系について、病態生理をまじえながら講義を行なう。

【授業の一般目標】

ヒトの個体・器官・細胞レベルで理解するための生理機能、さらにホメオスタシス（恒常性）の維持機構を個体レベルで理解するための生体のダイナミックな調節機構に関する基本的知識および態度を修得する。

【準備学習(予習・復習)】

シラバスならびに毎回の講義の最後に連絡する講義内容予告を参考にして、事前に教科書に目を通すなど予習した上で講義に臨み、講義中に内容を十分理解できるよう心掛けること。受講後は、教科書・プリント（補助資料）・ノートを読み返して復習し、さらに下記の参考書などを用いて理解を深めること。

【学習項目・学生の到達目標と、対応するSBOコード】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標	SBOコード
1	感覚器系およびその機能（1）	高田	触覚・聴覚の調節機構を説明できる	C8-(1)- -1 C8-(1)- -1
2	感覚器系およびその機能（2）	高田	視覚・嗅覚・味覚系の調節機構を説明できる	C8-(1)- -1
3	生殖器系およびその機能	高田	生殖機能およびその調節機構を説明できる	C8-(1)- -1
4	循環器系およびその機能（1）	芦原	心臓の解剖およびその機能調節を説明できる	C8-(1)- -1
5	循環器系およびその機能（2）	芦原	血管系特殊循環の概説および心・血管系機能調節を説明できる	C8-(1)- -2 C8-(3)- -1
6	呼吸器系およびその機能	芦原	肺と組織のガス交換および呼吸機能の調節機構を説明できる	C8-(1)- -1 C8-(3)- -2
7	消化器系およびその機能（1）	芦原	消化器系の解剖および消化・吸収の機能調節を説明できる	C8-(1)- -1,2 C8-(3)- -1,2
8	消化器系およびその機能（2）	芦原	消化器系の解剖および消化・吸収の機能調節を説明できる	C8-(1)- -1,2 C8-(3)- -1,2
9	泌尿器系および体液調節（1）	北村	体液のろ過および再吸収の調節機能を説明できる	C8-(1)- -1
10	消化器系およびその機能（3）	芦原	消化器系の解剖および消化・吸収の機能調節を説明できる	C8-(1)- -1,2 C8-(3)- -1,2
11	内分泌系とホメオスタシス（1）	芦原	内分泌系調節機構の概要ならびに脳から分泌されるホルモンの機能およびその調節機構を説明できる	C8-(1)- -1 C8-(3)- -1 C9-(5)- -1,2,3,4
12	泌尿器系および体液調節（2）	北村	体液の酸塩基平衡の調節機構を説明できる	C8-(3)- -1,2
13	内分泌系とホメオスタシス（2）	芦原	甲状腺ならびに副甲状腺から分泌されるホルモンの機能およびその調節機構を説明できる	C8-(3)- -1 C9-(5)- -1,2,3,4
14	内分泌系とホメオスタシス（3）	芦原	副腎ならびに膵臓から分泌されるホルモンの機能およびその調節機構を説明できる	C8-(3)- -1,2 C9-(5)- -1,2,3,4
15	総括・まとめ			

（書名）

（著者・編者）

（発行所）

教科書	パートナー機能形態学：ヒトの成り立ち 藤原道弘 他	南江堂
参考書	理系総合のための生命科学（第2版） 標準生理学（第7版） Molecular Biology of THE CELL (5th Edition) 原書、翻訳版（「細胞の分子生物学」） TEXTBOOK OF Medical Physiology (11th EDITION)原書、翻訳版（「ガイトン生理学」） チーム医療を担う医療人共通のテキスト「病気が見える」シリーズ ダイナミックワイド 図説生物 総合版	羊土社 医学書院 ニュートンプレス エルゼビア・ジャパン MIDIC MEDIA 東京書籍

【成績評価方法・基準】

定期試験の成績によってのみ評価する。

【オフィスアワーなど担当教員に対する質問等の方法】

オフィスアワー：月～金の12：25～13：25；オフィスアワーに不在となることもあるので、来室前には学生番号と氏名、用件を書いて、パソコンから担当教員メールアドレス（芦原：ash@mb.kyoto-phu.ac.jp、北村：yo-kita@mb.kyoto-phu.ac.jp、高田：kaz@mb.kyoto-phu.ac.jp）に、対面質問のAppointmentを取って来てください。